

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390900021		
法人名	株式会社 フレンズホーム		
事業所名	フレンズハウス古新町		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区古新町2丁目72番地		
自己評価作成日	平成26年11月30日	評価結果市町村受理日	平成27年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年12月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方からの行事の誘いが多く地域の方からふれあいを求めてくれる。いきいきサロン(町内のお茶会)や消防訓練・パトロールにも参加し関わりを大切にしている。</li> <li>・行事が多く、利用者様と一緒に楽しんでいる。また普段の生活の中で掃除、食事作りなど得意とした分野を生かした支援をしている。</li> <li>・温泉タンクを設置し温泉気分を楽しむ事が出来るため、楽しみの一つとなっている。</li> <li>・年に4回消防訓練を実施しており、消火器の取り扱いを学んだり、搬送法の勉強会も行っている。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>理念は「お互いに思いやりや信頼をし合い、チームワークを大切にする」である。理念に添った具体的な目標を掲げて毎月、振り返り確認をしながらサービスの向上に努めている。また、地域の人から事業所についても理解がされ、利用者は地域の人達に溶け込んでおり、地域行事(春秋の祭り、いきいきサロン、パトロール)など積極的に参加し交流を図っている。事業所としては、特に防災訓練には力をいれており、年に4回消防団の人を中心に実施され、いつでも利用者を避難できるよう訓練している。家族からは利用者に対する職員の細かい気配りに感謝しているや、精神的にも支えて貰っているなど声があり良好な関係が伺える。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で明るく楽しく元気に暮らし、地域とのふれあい関わりあいを大切にして取り組んでいる。ユニット理念を掲示し月に1回のミーティングでは朗読確認し意見の統一を図っている。	ユニットごとに理念を提示し、月1回のミーティングで復唱している。また、3ヶ月毎に職員からアンケートをとり、理念に近づけていけるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者と共に町内のお祭り等、地域行事に積極的に参加している。0の日パトロールや月1回夜間パトロールにも参加しアルミ缶回収に協力している。	地域の人の理解があり、地域の行事(いきいきサロン、祭りなど)には、利用者と共に参加をして交流に努めている。近隣の防災パトロールや地域のアルミ缶回収にも協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合にも参加し認知症ケアの啓発に努め、地域の方々に施設訪問して頂き理解を深めている。実習生の受入れ等、積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催しており町内会長、いきいき支援センターの職員の方など参加があり運営状況や活動状況など報告し、意見や助言も頂きサービス向上に生かしている。	偶数月に運営会議を開催しており、町内会長、いきいき支援センターの職員、家族が参加し、意見交換や助言、提案がだされ、サービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にいきいき支援センターの方が参加しており体調などに関するアドバイスを頂いたり、定期的に区役所に出かけ保護係担当者へご利用者の暮らしぶりやニーズなど伝え連携を取っている。	市町村の年3回の勉強会には積極的に参加している。また、月に1回の区役所の訪問の際、保護係担当者へ利用者の状況も伝え連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のために夜間のみ玄関に施錠しているが、原則施錠はしておらず身体拘束しないケアに取り組んでいる。又、研修に参加したりマニュアルに従い職員は身体拘束を行わないよう理解している。	身体拘束について、研修に参加し、熟知している職員が多く、原則拘束を行わない。外出したいという利用者については無理にとめず、職員がついて出掛けるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が身体的虐待だけではなく暴言、無視など心理的な嫌がらせも含む事も学び、虐待行為が見逃されないよう、不適切なケアと感じた時は注意を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対称となるご利用者が入居していないため活用する事がなく支援に至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人、ご家族が納得のいくよう十分説明をしている。その際に施設内に起こりうるリスクの説明や疑問点にお答えしている。希望や不安も相談の上、納得してから契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し意見や要望に答えられるようにしている。普段は面会時に様子を伝えると共に要望もお聞きしている。年に2回ご家族会も開催しており意見を聞く機会を設けている。	家族会は年に2回開催され、意見や要望を聞き取り、施設としても受け止め改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を開催し職員の意見を聞くようにしている。又、普段の会話からも職員の不満や意見にも耳を傾けている。	月に1回の会議にて、職員への意見を聞くようにしている。意見や要望を聞き取り、反映している。 管理者は年2回個人面談を行いコミュニケーションを図っている。普段の会話から、職員の相談にも耳を傾けるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に現場を訪れ職員やご利用者と会話する時間を作っている。又、職員の資格取得に向けた支援や研修に参加できる機会を設け向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われている外部研修の情報を収集し職員のレベルに応じ、なるべく多くの職員が研修に受講出来るよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所や近隣の事業所とも交流を持ち学習会や行事参加を呼び掛けている。相互訪問しネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談でご本人の生活形態の把握に努め困っている事や不安に思っている事を聞き取り話し合い信頼関係を築いている。入居後はセンター方式にて情報を取り支援に結び付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や思いををしっかり受け止め、その場で話し合い、現場にも報告し改善を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望はケアプランにも取り入れ改善に向け相談し連携を取り信頼関係に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の得意分野のお手伝いをして頂き支援する側、される側という意識を持たずご利用者と職員が助け合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時にはご本人の日頃の状況をできるだけ詳しく報告、相談しご本人と家族の絆を大切に共に支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力して頂き継続的な交流を支援し馴染みの場所、人との関係が途切れないように努めている。	家族の協力の下で馴染みの場や人との交流はある。職員も買物、喫茶店へ行くなどの外出支援で、馴染みの関係継続の協力を努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者全員が参加できるレクリエーションに努め、ティータイム・散歩など共に楽しく過ごせる時間を増やし利用者様同志の関係が円滑になるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しく変わった施設と連携を持ち情報提供したり訪問もしている。入院され退去された方はお見舞いに行くなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中でご利用者一人ひとりの意向を聞いたり、言葉や表情などから確認しそれぞれに近付けるように努力している。困難な時はご家族に相談し協力も仰いでいる。	職員がケアの中で汲み取った気づきや言葉は個人記録に残し、申し送りで伝えている。また、マンツーマン時のコミュニケーションを大切に、より深く気持ちを把握したり、日常とは違う意向や情報を知る機会にもなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族にご本人様のバックグラウンドの情報を提供してもらい生活歴などから把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の様子などを記録し生活リズムを理解し申し送りなどで職員全員が現状を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に思いや意見を聞いたり、現状と介護計画にずれがないようにカンファレンスを行い変化に応じて更新している。	モニタリングや日々の介護のチェックや生活記録を基に担当者会議で計画について話し合っている。職員全員にも意見や支援方法についてアイデアを求め、現状とのズレが生じないよう検討を重ねている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し食事量、水分量、排泄、バイタル、エピソードを個別記録に記入しいつでも全ての職員が確認出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のニーズに対してその都度の対応に心がけ通院や送迎などの必要が生じた際には臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と意見交換し情報も共有している。地域の方には積極的に挨拶をし、地域行事(お祭り等)や町内パトロールにも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医はいるがご本人やご家族が希望する医療機関がかかりつけ医になっている。受診の際には情報提供を行っている。	以前からのかかりつけ医継続の人もある。歯科の訪問は月1回で入れ歯の調整もお願いできるが、処置が無理な場合は家族受診を依頼している。日常の健康管理は週1回訪問の看護師が行い、健康面での相談や医師との連携も図られており、安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回訪問看護師がみえ、健康管理をしてもらっている。その際に情報を共有している。協力医とも連携を取っているため適切な医療を受ける事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成し医師、看護師と情報を共有している。入院によりADLの低下を防ぐため対応可能な段階で退院できるように担当医とも連絡を取るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴いご家族との連携を大切にしている。ご本人やご家族の意向に沿えるよう医師との連携を取り指導の上、可能な限り支援出来るように努めている。	今までに看取りの経験はない。医療行為が必要になれば、法人関連の有料老人ホームや他施設への入所を紹介し、行き先が決定するまでのケアとしている。他の場合、主治医や家族、ホームとの話し合いで検討している。救急救命や緊急時対応の研修や勉強会に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、誰でも対応できるように周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間火災想定消防訓練を消防署員の立会いの下行っている。他年2回日中想定避難訓練を行いご利用者全員参加で実施している。地域に協力も依頼している。	年4回の内、2回は消防署立会いで訓練を実施し、職員が必ず1回は参加できるよう考慮している。フロアに頭巾、玄関入口には各自のリュックが備えてある。町内の消防訓練参加の誘いもあり、町内会との協力体制も前向きに進んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの気持ちを大切に考え、人格を尊重しプライバシーを傷つけないように注意している。	利用者を人生の先輩として、人格を尊重し、プライバシーを損ねる大きな声で話さず、トイレや入浴時の扉の開閉に気を付けて対応している。また、申し送り等は個人名を使わず、さりげなく居室番号で行ない、言葉使いとともに個々の尊厳に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定が困難なご利用者に対しては表情を読み取ったり複数の選択肢を提案し、ご自分で決められるような環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、ご利用者の希望があれば外出や買い物を個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のお気に入りの服装や髪型を把握し、その方らしさを保てるように配慮している。2か月に一度訪問理美容を利用し常に清潔を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳・片付けなどを職員と共に行い、一緒に食事を楽しい時間となるように努めている。	利用者の好みを取り入れ、不評のものは変更しながらバランスの良い食事となるよう努めている。お正月はおせち料理を楽しむ予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録に残し個別に把握し、体調が悪い時や摂取量が少ないときは主治医に報告し職員同士も情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、見守りを行いご自分で出来る所まではやって頂き、必要な方は介助している。義歯は夜間保管し手入れを確実にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表などを使用し個々の排尿感覚に合わせてトイレ声かけし誘導している。身体機能に応じ介助したりパット類もご本人に合ったもので対応している。	排泄記録を基に自立に向け、今の時点でできることへの支援を心がけている。声掛け誘導でトイレでの排泄を促し、表情や行動も視野にいれ、安易なオムツの使用は最小限にし、自信へと繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多くした献立をたてたり、起床時に硬水や牛乳を飲んで頂いている。腹部マッサージや体操を取り入れ便秘にならないよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	外出や受診などの予定があった場合は前日に入浴をして頂いたり、拒否される方には声かけに工夫をし入浴を楽しんで頂いている。	ほぼ2日に1回、午後の時間帯で入浴している。週1回温泉の湯が楽しめ、拒否される人には職員の声掛けや外出のタイミングを上手く利用している。入浴剤の利用や好みの湯温に調整し、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーション、会話、散歩などを取り入れ活動的に過ごして頂き生活のリズムを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に薬のファイルを作成し、整理し内容把握に努めている。医師、看護師、薬局との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野の力が発揮出来るよう、役割を増やすことにより生きがいを持って生活して頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は散歩を優先し楽しんで頂いている。喫茶ツアーや外食ツアーなども計画し外出する機会を増やしている。又町内のお茶会にも月2回参加している。	天候を見ながら、日々の散歩を日課とし、地域のパトロールにも参加している。他の施設と合同でカラオケ、喫茶店、季節的な外出で花見や初詣、白鳥庭園への遠足といった遠出の機会も作っている。毎年日帰り旅行を実施し、3月に松ヶ島温泉に出かけ、戸外へ出かける支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により少額の金銭を持っている方もおり、買い物の際にはご自身で会計されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自立している方で希望があれば、ご自分で携帯電話を管理し好きな時間にご家族と話をしている。必要な場合は施設の電話を貸している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は皆様が使いやすいように配慮している。フロアには季節に応じた飾り付けをしたりご家族との写真を貼ったりと工夫している。	ソファ、椅子やテーブルが配置され、習字や手作り作品、季節感あふれる飾り付けが居心地よさを感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置し気分を変えてくつろいで頂いたり、仲の良いご利用者同士過ごせる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みのあるものを持ち込んで頂き写真を飾ったり仏壇やテレビなどを置き、居心地の良い環境で安心して過ごせるようにしている。	使い慣れた家具、タンス、ベッド、仏壇、手作り作品や写真が飾られ、掃除も行き届き、清潔感溢れる居室となっている。カーテンも防煙であれば希望のものを使用でき、居心地良く過ごせる環境づくりに役立っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに張り紙をし分かりやすくなるよう工夫している。又ご利用者の動きが把握しやすい建物の構造になっている。		